

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：平成 30 年 7 月 22 日 報告者：手嶋 充善

行事種別	研究会	行事番号	180015858
開催日	平 成 30 年 7 月 21 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋第二赤十字病院 1 病棟 10F 加藤化学カンファレンスホール		
テーマ	これから始める脳波検査		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	豊橋市民病院 手嶋 充善		
講 師	講演 1 検査を始める前の予備知識 名古屋市立大学病院 久富 一毅 講演 2 検査中に気をつけたいこと ～実際の波形を見てみよう～ 名古屋大学医学部附属病院 榊原 久美子		
内 容	脳波検査を始めたばかりの頃は、装着や記録だけで手一杯になることも多いと思います。しかし基本を押さえていないと、いざという時に対応できません。今回「これから始める脳波検査」とテーマを掲げ、2 人の講師の先生から講演いただきました。講演 1 では久富技師より検査を始める前の予備知識として、脳波検査を行うにあたって必要な電極装着のコツを中心に、検査を行う前に臨床情報を得ておく必要性、脳波検査の意義、賦活法の種類や脳死判定についてと、経験も踏まえ幅広く説明していただきました。講演 2 では榊原技師より検査中に気をつけたいこととして、実際の脳波波形から基礎波の判読やアーチファクト対策など、数多くの症例を交えてわかりやすく講演していただきました。これから始める方も日常業務に携ってみえる方にも、とても勉強になった内容でした。講演後には、日頃現場で困っている事例の質疑応答や新人教育についての方法も説明していただき、とても有意義な研究会でした。 (報告：手嶋 充善)		
参加者	総数：128 名（会員 119 名、県外会員 8 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）		
共催、後援など	なし		

2018.7.22

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：平成 30 年 10 月 22 日 報告者：倉田 貴規

行事種別	研究会	行事番号	180012619
開催日	平成 30 年 10 月 20 日 (土)		
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了 17 時 10 分
場 所	名古屋市立大学医学部研究棟 11 階 講義室 A		
テーマ	認定心電検査技師として基礎を学びなおそう		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋第一赤十字病院 倉田 貴規		
講 師	講演 1 「認定心電検査技師試験合格を目指して」 ～昨年の受験体験と試験への取り組み 刈谷豊田総合病院 宮地 里美 講演 2 「診断と薬」 碧南市民病院循環器内科 牧野 太郎 講演 3 「心電計の基礎知識」 日本光電工業株式会社 根本 剛 講演 4 「今どきの認定試験ってどんな感じ？筆記実技対策」 JA 愛知厚生連海南病院 樋口 昌哉 碧南市民病院 山田 裕香		
内 容	心電図検査を始めたばかりの頃は、装着や記録、患者接遇だけで手一杯になることも多いと思います。自動判読に頼らず、波形の基本を理解し積極的に医師や看護師に助言出来るようになりたいと、これから心電図の認定試験を受験しようと考えている技師は多いと思います。 今回、「認定心電検査技師として基礎を学びなおそう」をテーマとして掲げ、4 人の講師の先生から講演いただきました。講演 1 では宮地技師より、認定心電検査技師試験合格を目指して、経験を踏まえた昨年の受験体験と試験への取り組みを中心に、講演 2 では牧野循環器医師より循環器診療に必要な心房細動の診断と薬の使用および効果について、講演 3 では根本氏（日本光電）より心電図検査を始める前の予備知識として、心電計の基礎知識、講演 4 では樋口技師と山田技師より、今どきの認定試験ってどんな感じ？筆記実技対策と実際の心電図波形の判読のポイントやパニック値対策など、数多くの症例を交え幅広く講演していただきました。心電図検査を行うにあたり、ME 機器の構造や安全対策、波形判読を中心に、これから認定を取得しようと考えている方、および日常業務に携り教育の立場にある方にも、とても充実した内容でした。 講演後には、日頃現場で困っている事例の質疑応答や新人教育についてもご指導いただき、とても有意義な研究会でした。 (報告：倉田 貴規)		
参加者	総数：135 名 会員 121 名(講師 3 名含む)、県外会員 12 名、医師 1 名(講師)、メーカー 1 名(講師)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：平成 30 年 12 月 2 日 報告者：大竹 悦子

行事種別	研究会	行事番号	180019458
開催日	平成 30 年 11 月 17 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋第二赤十字病院 研修ホール		
テーマ	呼吸機能検査に必要な薬剤の知識		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	公立陶生病院 大竹 悦子		
講 師	講演 1 「喘息治療薬」 公立陶生病院 薬剤師 宮島 紀彦 講演 2 「症例報告 1 呼気 NO 測定」 刈谷豊田総合病院 鈴木 優大 講演 3 「症例報告 2 気道可逆性試験」 藤田医科大学病院 関根 秀治		
内 容	呼吸機能検査では、検査時に気管支拡張薬を使用する場合がある。また、患者が服薬している薬が検査結果に影響する場合があります、検査に携わる検査技師にとって薬剤の知識は必須である。今回、薬剤師の宮島紀彦先生を講師にお招きし、喘息の治療薬の種類や結果にどう影響するのかをお話しいただいた。また、患者への服薬指導がどのように行われているかの実演もあり大変参考になった。薬剤師が服薬指導を行う機会は限られており、呼吸機能検査に来院した患者が薬剤について疑問や不安の訴えがあった際は薬剤師に連絡するなど、チームの一員としての自覚を持つことも大切と分かった。症例報告は、喘息の病態から検査の種類を復習したのち、代表的な検査である気道可逆性試験と呼気 NO 測定試験を中心に報告を行った。 (報告：大竹 悦子)		
参加者	総数：名 会員 81 名、県外会員 1 名、薬剤師 1 名(講師)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：平成 30 年 12 月 17 日 報告者：石神 弘子

行事種別	研究会	行事番号	180021732
開催日	平成 30 年 12 月 15 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 時 間
場 所	名古屋第二赤十字病院 加藤化学カンファレンスホール (所在地 名古屋市)		
テーマ	最新のガイドラインを見直そう！！		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋第二赤十字病院 石神 弘子 技師		
講 師	名古屋掖済会病院 花井 甲太郎 技師、豊橋市民病院 手嶋 充善 技師 JA 愛知厚生連安城更生病院 犬塚 斉 技師、小牧市民病院 岸 久美子 技師		
内 容	心血管領域のガイドラインについて、4 名の技師による解説と実際の症例での評価方法の講演があった。心臓超音波検査の領域は国内でのガイドラインはなく、アメリカ心エコー図学会やヨーロッパ心臓病学会などのガイドラインが使用されるが、実際の現場では英語で書かれた数十ページのガイドラインを検査項目、疾患領域毎にアップデートされる度に把握していくのは非常に困難であり、こうした解説し、評価方法を提示してもらえる機会は貴重である。花井技師からは左室計測のガイドラインの解説があった。アメリカのガイドラインは 3D エコーの有用性が記載されているが、本邦では 3D エコーは日常臨床で十分に普及していないため、2D での計測の各種方法による利点と限界について詳しく説明があった。具体例としてタコつぼ型心筋症の症例での計測が提示された。手嶋技師は右心評価ガイドラインの解説があった。右心はルーチンで必須項目としている施設は少ないため、計測と機能について評価に用いる断面と正常値が詳しく提示された。犬塚技師からは、心臓拡張能評価ガイドラインの解説があった。今年度の日臨技の精度管理調査でも、最新のガイドラインに沿った出題があり、今回は、改定されたフローチャートに沿って症例での解説が行われたため、各施設で実際の拡張能評価に今回の講演で得た知識を反映できると感じた。頸動脈エコーは日本超音波医学会から出された超音波による標準的評価方法(案)に準じて、実際の病変の評価方法を解説いただいた。特に外科的治療介入が検討される病変での流速の計測が重要であるとのことであった。こうした機会により標準的な評価方法が周知されていくことが愛知県の心臓・血管超音波検査の標準化に繋がると感じた。		
参加者	総数：136 名 (会員 133 名、県外会員 1 名、非会員 2 名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：平成 31 年 1 月 21 日 報告者：手嶋 充善

行事種別	研究会	行事番号	180026131
開催日	平成 31 年 1 月 19 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋市立大学医学部研究棟 11 階 講義室 B		
テーマ	平成 30 年度愛臨技サーベイ解説		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司 会	豊橋市民病院 手嶋 充善		
講 師	1. 愛臨技精度管理報告 総括 手嶋 充善 (豊橋市民病院) 2. 心電図検査 倉田 貴規 (名古屋第一赤十字病院) 3. 腹部・表在超音波検査 藤田 啓介 (JA愛知厚生連豊田厚生病院) 4. 心臓・血管超音波検査 海老名 祐佳 (名古屋第二赤十字病院) 5. 脳神経検査 鍋谷 洋介 (トヨタ記念病院) 6. 呼吸機能検査 山口 温子 (赤羽乳腺クリニック)		
内 容	平成 30 年度愛臨技サーベイの解説を行った。分野ごとに 5 名の技師が設問ごとに詳しい説明を加えて解説した。とてもわかりやすく解説されていて、設問の意図や関連する症例等も提示されていた。昨年度に引き続き、本年度も問題作成に際して注意を払い、班員相互のチェックも強化したため、概ね良好な正答率であった。アンケート調査では、昨年 12 月より医療法一部改正の施行もあり、手順書作成や内部精度管理などの帳票整備が義務付けられた。今回の改正では検体検査についてだが、生理検査部門においても同様であり、今回のアンケート調査内容を手順書作成や内部精度管理方法の参考にして頂ければと思う。 動画媒体においては、昨年度同様に web のみでの公開にした。不具合等の報告もなく来年度も続けていきたいと思う。 今後も内部精度管理も含め、日常業務につながるような精度管理の問題作成を進めていきたい。 (報告：手嶋 充善技師)		
参加者	総数：81 名 (会員 79 名、県外会員 1 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)		
共催、後援など	なし		